

火技之中興洋兵之開祖 たかしましゅうはん 高島秋帆について

高島秋帆は、寛政10(1798)年、長崎の町年寄まちとしよりの家に生まれた。名は茂敦もくすんといい、通称は四郎太夫しろうたゆう、秋帆あきほは号である。

父の跡を継ぎ、町年寄や鉄砲方を勤めるかたわら、広く蘭学らんがくを修め、特にオランダ人を通じ、砲術を研究し、西洋式の高島流砲術を創始した。天保年間には、欧米のアジア進出の危機に備えて、砲術の改革を幕府に進言するなどした。

天保12(1841)年、秋帆44歳のとき、幕府の命により、江戸近郊の徳丸ヶ原とくまるがはら(現在の東京都板橋区高島平たかしまだいら)で西洋式の調練ちようれんを実施し、西洋式の兵術・砲術を紹介した。その結果、幕府は幕臣にも西洋式の兵術・砲術を学ばせることとなり、伊豆いず蕪山いらやまの代官、江川太郎左衛門えがわたろうざえもんをはじめ、多くの幕臣が彼のもとに入門した。

しかし翌13(1842)年、秋帆は中傷ちゆうしょうにより獄ごくに投ぜられ、弘化3(1846)年から赦免しゃめんされる嘉永6(1853)年まで岡部落預おかかりの身となった。

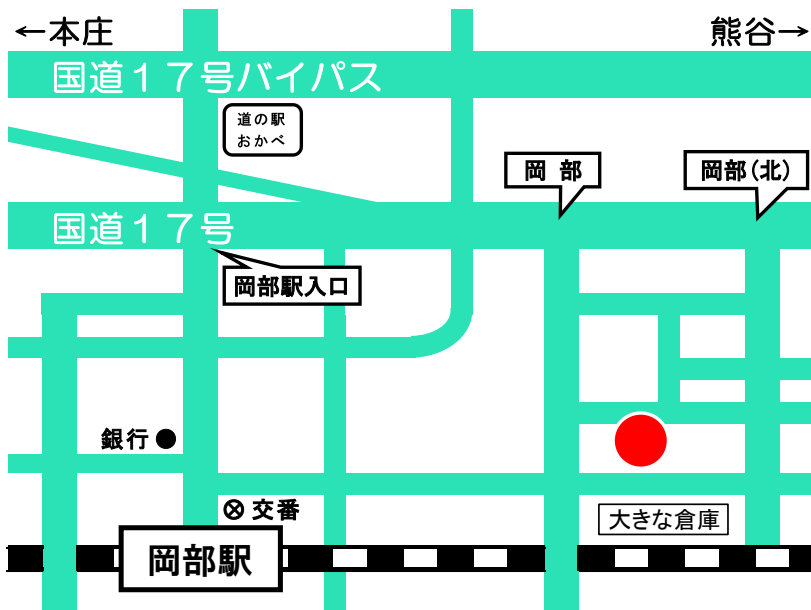
写真の碑がある場所は、当時の岡部落陣屋の一角であり、この石碑の立つ場所に秋帆は幽囚ゆうしゅうされていた。岡部落では客分扱いとし、藩士に兵学を指導したと伝えられている。その後、江川太郎左衛門ら、秋帆の門人たちは幕府に願い赦免に尽力、ついに嘉永6(1853)年、ペリー来航と共に幕府は近代兵学の必要性に迫られたことから急きょ秋帆を赦免した。

この後、秋帆は幕府に仕え講武所教授方頭取、講武所奉行支配などをつとめ、慶応2(1866)年、69歳で没した。日本の西洋式兵学の先駆者である。



「高島秋帆幽囚の地」の碑

高島秋帆幽囚の地(岡部落陣屋跡) アクセスマップ



【埼玉県 深谷市 岡部 1201】

JR岡部駅から約1.5km(徒歩で約20分)